

# 国際色豊かなまちに

## キャンプ瑞慶覧ロウワー・プラザ地区跡利用

【沖縄・北中城】米軍キャンプ瑞慶覧ロウワー・プラザ住宅地区の地権者会（吉村正夫会長）は4日までに、返還後の土地利用のイメージを示したプラン案をまとめた。地権者会は土地区画整理組合設立へ向けた準備会結成を目指している。「国際色あるまちづくりをしたい」と話す吉村会長は、2023年度以降の取り組みを聞いた。

（中部報道部・屋良菜々子）

### 地権者会の吉村会長に聞く

跡地利用面積は沖縄市と北中城村にまたがる計26畝で地権者は1月時点で323人。返還予定は「24年度またはその後」で、24年度の返還を前提に準備を進めている。23年度は、道路や各街区の配置や面積を固めた「跡地利用計画案」を策定する方針だ。まちの発展には、交通の便利



性が必須とし、道路改修や整備計画に向けて、市や村と連携し、交通量推計を進める。誘致企業の検討にも着手する予定だ。

地権者へのアンケートで欲しい施設として「商業施設」との声もあった。仮に商業施設をつくる場合は、近隣のイオンモール沖繩ライカムと「シナジー効果があり、集客力がある企業を選定したい」と将来的な展望を語る。

スピーディーで高品質なまちづくりに向けて「今は地権者の一体感が期待できる状況」という。だが、返還が現実……

今後の展望を語るキャンプ瑞慶覧ロウワー・プラザ地権者会の吉村正夫会長（2月28日、沖縄市内）

### 24年度返還を前提に準備

在の予定より5年、10年先になると「ぼむと懸念」。「24年度以降、なるべく早めに返還してもらいたい」と要望した。地権者の同意を得た上で土地区画整理組合設立へ向けた準備会を24年度に結成し、その後、事業計画案を作成する予定だ。

観光客や地元の人、定住している外国人など「誰もが楽しめる、国際的な交流によって、まちの価値を上げていきたい」との考えを示した。県の発展には、中部や北部にも拠点が必要で、同地区が中部の拠点になれば「県全体の経済に高い効果が見込める」と期待。个性的で特徴あるまちづくりを目指すといい、「地域の人々が喜ぶまちになるよう、知恵を絞っていききたい」と話した。

